

令和 2 年 4 月 17 日

教 育 長 様

研究コース
グループ研究B
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)
752728

代表者	校 園 名 :	大阪市立瓜破西中学校
	校 園 長 名 :	佐 渡 太
	電 話 :	06-6705-0700
	事 務 職 員 名 :	下 村 邦 枝
申請者	校 園 名 :	大阪市立瓜破西中学校
	職 名 ・ 名 前 :	首 席 ・ 木 下 祐 介
	電 話 :	06-6705-0700

令和 2 年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	新規研究 (1 年目)
2	研究テーマ	『命』を軸にした、生きる力を育む教育活動の展開			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>①命を守る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害における防災教育について研究する ・いじめ・差別など人災の視点からもアプローチする ・安心・安全な学校づくりについて、他府県の実践や取組を視察し、大阪市の還元する ・自分の命、周りの命を大切にする命の教育 <p>②命を輝かせる取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士を結び付け、自分たちで高めあう教育活動の実践 ・ボランティアや人権教育の視点から、自尊感情・自己肯定感を高める活動の探究 ・さまざまな研修を行い、生徒・教職員が一体となって学校・地域を変えていく ・リーダー層を育成するとともに、地域に貢献できる生徒を育てる 			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>9 年前に発生した東日本大震災以降、日本全国に防災教育が浸透した。その中でここ数年、全国各地で地震や台風や豪雨災害による河川氾濫が発生し、今まで以上に命を守る取り組みや実践が必要になってきている。また新型コロナウイルスの影響で、都市部における差別やデマ、いじめや暴言など、人災の視点からも命を守る取り組みをより一層行っていく必要があると感じている。</p> <p>今回『命』を軸に、様々な視点から思考、実践を行い、大阪市の子どもたちが、安心して過ごせる、安全な学校づくりをするにはどうするべきかを考えると同時に、生きる力を育む教育活動を展開していきたい。そのために教職員が命について改めて考え、今後予測される災害や社会にどう備えるべきか、どう行動するべきかを協議を重ね検証していきたい。</p> <p>具体的な研究内容として</p> <ul style="list-style-type: none"> ①他府県視察 (防災教育、命の取り組みを行っている施設・先進校を視察する) ②命の講話 (有識者や著名人に講話を依頼し、教職員の意識を向上させる) ③安心・安全な学校づくり (地域の現状に応じた防災マップ、避難所運営の方法) ④命の大切さやいじめや差別発言など、心の指導、心のケアについての研究・実践 ⑤生徒から生徒へ (命をテーマに、生徒同士がつながり高め合える関係づくりの構築) 			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>○瓜破西中学校・墨江丘中学校の教職員が連携し、大阪市全体に働きかけ学びを還元する ○東日本大震災の際、学校独自で避難所運営を行い、現在も全国各地に講演を行っている 元石巻西高校校長の齋藤幸男先生に防災教育や避難所運営の享受をいただく ○宮城教育大学主催の宮城県・岩手県の被災地実地研修に参加し、現地の生の声を伺う ○人災の視点から、都市部における課題や取組について、関東を視察し専門家の意見を聞く ○南海トラフ巨大地震に対して、先進的な取組を行っている和歌山県田辺市を視察する ○台風や豪雨による河川氾濫に対する備えとして、岡山・広島などの被災地を視察する ○有識者や著名人に「命」についての講演会を企画し、生徒・保護者・地域に発信する ○2校合同で、「命」をテーマに生徒・教職員研修を行う</p> <p>4月 研究テーマ・目的・内容や見込まれる成果の検討・学校間の連携 5月 教員・生徒への事前アンケート作成、実施、分析 6月 研修プログラム、講演会の企画、内容の検討 7月 教職員研修（専門家を招いた研修） 南海トラフ巨大地震について田辺市の教育委員会、先進校への視察（和歌山県） AED講習会（生徒） 8月 リーダー研修（教職員・生徒会交流） 被災地実地研修への参加、視察（東北方面） 9月 人災の観点からの専門家からの提言・現地視察（関東方面） 10月 命の教育（命の尊さについての合同研修会） 11月 命の講話（有識者・著名人） 12月 豪雨災害、河川氾濫についての研究・視察（中国方面） 1月 命の講話（有識者・著名人） 研究発表会（参加者アンケート） 2月 教員・生徒への事後アンケート実施、事前アンケートの比較・分析・結果の考察</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪府教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 被災地視察において、経験者・有識者の意見を受け、大阪市の防災教育に役立てる</p> <p>《検証方法》 教職員研修においてアンケートを作成し、今後の教育活動の参考になったという項目で肯定意見を70%以上にする</p> <p>【見込まれる成果2】 人災の視点から、都市部における2次災害などについて対応マニュアルを作成する</p> <p>《検証方法》 大阪市学校園全体に発信し、今後の学校運営に役立てるという意見を70%以上にする</p> <p>【見込まれる成果3】 各学校の教職員の防災意識の向上に努める</p> <p>《検証方法》 事前・事後にアンケートをとり、事後アンケートの際、事前アンケートより肯定意見、評価を65%向上させる</p> <p>【見込まれる成果4】 生徒の自尊感情、自己肯定感を向上させる</p> <p>《検証方法》 命を大切にする、人の役に立ちたいという項目において、5ポイント上昇させる。</p>

6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果5】 教職員・生徒会の交流を行い、人と人とのつながりを広げ、高め合う</p> <p>《検証方法》 交流会、オンライン会議等を行う中で、充実した時間だった、またやりたいという意見を70%以上にする</p> <hr/> <p>【見込まれる成果6】 命の講話において、有識者、著名人から講演してもらい、生徒・教職員の意識を高める。</p> <p>《検証方法》 感想用紙において、肯定的な意見・感想を8割以上にする。来場者数を200名以上にする。</p>				
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 <u>報告書提出日（令和3年2月22日）までに必ず行ってください。</u></p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="399 757 1474 831"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 3 年 1 月 29 日</td> <td>場所</td> <td>未定</td> </tr> </table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p> <p>墨江丘中学校ホームページ</p>	日程	令和 3 年 1 月 29 日	場所	未定
日程	令和 3 年 1 月 29 日	場所	未定			
8	代表校園長のコメント	<p>瓜破西中学校、墨江丘中学校ともに、3年前の台風による豪雨災害において、近隣の大和川が氾濫し、学校が避難所となった。今後南海トラフ地震や豪雨災害の被害など自然災害が多発する恐れから、防災教育の意識や在り方について、今一度考え実践していく必要がある。</p> <p>また今回の新型コロナウイルスの影響や人口の多い都市部において、人災の視点からも考え、命を守る教育活動を行う必要がある。命を軸にして行う教育活動は、命を大切にする、人と人とのつながりを大切にとことだけでなく、生徒の生きる力を育み、地域貢献やリーダー育成につながる意義深い活動である。</p> <p>今回の研究はそのきっかけとなり、大阪市全体にも発信できる取組であるので、ぜひ申請させていただきたい。</p>				